

スーパーFJ 鈴鹿シリーズ 第1戦
接触をチャンスに変えた大類選手の開幕戦

- 3月4日(金) 日本全国各サーキットの中でいち早く開幕をむかえる鈴鹿シリーズでARTの2011年シーズンは始まった。3月4日(金)この日は全走行スケジュールは4本あり、全て走行する予定で鈴鹿サーキットへ入った。
- 1本目、午前10:10 気温7℃ 湿度41% 路温12℃ほど天気は晴れているものの風によって雪が朝から舞い散っていた。以前の走行よりも、車両のセッティングを若干変更し、サーキットへ持込んだが大きく状況は変りはしなかった。この時の大類選手のベストは、1'28'30各選手にタイムは1'23秒後半から24秒であった。
- 2本目、午前11:40 気温10℃ 湿度36% 路温14℃気温、路温ともに上昇したものの天候に変りはなかった。タイヤ、マシンを温め、タイムを上げていっていたが、走行中ごろにドライブシャフトが折損するトラブルがおき、走行中断となってしまった。タイムの伸びずに、各選手は少しずつではあるがタイムが上がってきていた。
- 3本目、午後2:45 気温10℃ 湿度28% 路温21℃となっていた。1本目、2本目の走行をコーススタンドでチェックしていた為、見るからにグリップしていないようだった。コースドライヤーで、走行距離も増えていたため、グリップダウンは避けられないようだった。その中でも最も気になる部分をコメントをもとにセッティングを少し変更をした。フィーリング、タイムともに良くなりベストは1'27'72で走行を終了した。他選手では、1'23'84であった。その時点で約3.9秒ほどの差であった。
- 4本目、午後4:20 気温6℃ 湿度41% 路温21℃夕方という事もあり、気温、路温ともに低下していた為、タイムは期待できないと思っていた。ラインのとり方、車両の動かし方などをアドバイスをしていき、そのせいなのか、タイムも少し上がってきていた。
- 3月5日(土) 1本目、午前10:20 気温8℃ 湿度43% 路温17℃ 天候は以前と違い、日光がとても暖かく感じる天気となった。この日の朝一番から練習ではあるがニュータイヤを使い走行開始となった。全体的なグリップが上がり、走らせ方など少し修正をしながらの走行であったが前日のベストをあっさり更新し1'24'86となっていた。この時の全体ベストでは1'22'50であった。約2.3秒差になっていた。ドライバーもより良いタイヤで走行をしなければセッティングも前には進まない事を痛感していた。
- 2本目、午後1:30 気温12℃ 湿度31% 路温19℃での走行開始となった。グリップが高くなっていたので、車両の走らせ方などを再度チェックしセッティングも少しだけ変更し走行に望んだ。他選手もタイムを上げてきていたが、大類選手も約0.5秒ほど縮めていたが、タイム差はつまらないものとなった。
- 3本目、午後3:30 気温18℃ 湿度21% 路温30℃となっていた。金曜日、土曜日と、両日ともに天候もよく、コースもドライ続きであった。翌日のレースに向けて最後のセッションとなった。2本目に出したベストタイムと同タイムでの周回を繰り返していた。しかしそれ以上はタイムは伸びずにいた。他選手もタイムは伸びてはなかった。
- 3月6日(日) 午前10:40 気温13℃ 湿度27% 路温22℃で予選はスタートとなった。前日の走行より、頭の中を整理していたため、ニュータイヤでアタックのいい方向に向かっていった。どの選手も予選の後半にタイム更新をしていった。大類選手も同じくアタックを開始する。ポジションを探すのに苦労していたようだった。予選タイムは、1'24'139となりベスト更新をしていたが、ポジション15ポールポジションタイムは1'21'907 cコースレコードを塗り替えるものとなった。予選後大類選手は、気負いすぎて走行をまとめるのに苦戦したと話していました。
- 午後3:40 気温14℃ 湿度36% 路温18℃天候は予報通り雲が多くなってきた空の下での決勝のスタートだった。スタート直後に他車どうしの接触をうまくすり抜け、4ポジションアップの11番手まで上がっていた。しかし、ポツポツとコースには雨粒が落ち始めてきていた。そのため、ペースが少し落ち、ポジションも1つ落とし12位でのチェッカーとなった。

中村監督コメント 今後順位を上げ、入賞めざしていきます。
ご声援御願いたします。

 Nankai Plan Co., Ltd.



鈴木会計
埼玉・川口
<http://www.tcnf.com/sds>

P PLUS

Moty's
SUPER LUBRICANT TECHNOLOGY

